



令和 8 年 7 月 17 日(金)
静岡 大学 教育 学部
附 属 静 岡 小 学 校
3 年 学 年 だ よ り 夏 休 み、8、9 月 号

立ち返ると見えてくるもの ～つながりを強めるためにできること～

3年生が始まってからの4か月間、仲間との生活や学習、行事での積み重ねを通して、各クラスが築いてきた空気感があります。33人いれば、33通りの感じ方があり、その空気感を心地よいと感じている子もいれば、その空気感に疑問を抱きながら生活している子もいるでしょう。あるとき、学級委員が最近のクラスの状態に課題を感じ、「先生、みんなとクラス目標について話し合いたいんですが、少し時間もらえますか?」と声をかけてきたことがありました。「“みんなが協力して、安全でしあわせなクラス” が目標のはずなのに、協力できてないし、目標に向き合えてない気がするから…」と。慌ただしい毎日を過ごす中でも、クラス目標に立ち返り、自分たちの状態をふり返りたい、もっとよくなりたい、もっといいクラスでありたいという強い気持ちの表れだと感じました。先生から問題提起をされるのではなく、必要感を抱いている子どもの中からタイムリーな問題が提起されたことに高い価値を感じたとともに、自分たちで課題を見つけ、改善するための行動を起こそうとしている自主的な姿に成長を感じました。

「つながり」では、「聴くこと」「時刻を守ること」が度々課題として挙げられます。「聴くこと」については、友達や先生の話をつただ単にきく「聞く」ではなく、注意深く、耳を傾けて目と心でもきく「聴く」を目指して各クラス励んでいるところです。あるクラスで「聴くこと」について話し合いの場が設けられた日、ある子の日記に、「**話すことはだれにでもできるけど、聴くことは、自分から聴こうと思わなければ聴けない**な」と話し合いから考えた自分なりの思いが記されていました。「時刻を守ること」についても、自主的に時計を見て行動を調整したり、チャイムの音に注意深く耳を傾けたりするといった主体的な行動が必要になります。ある子は、“時計を見て行動する、チャイムが鳴ったら席に座る、これをすることが時間を守るコツです。これからも時間を守ったら幸せなクラスになると思います”と日記に綴り、時間に対する意識を高めて生活しているようです。「聴く」も「時刻を守る」も、どちらも自分のためになり、結果としてその先にいる相手やみんなのためにもなること、それは「みんな」のしあわせな生活につながっていきます。一人一人が相手意識、集団意識をもって主体的に取り組むことが、「つながり」のみんなが目指す集団に近づく一歩なのではないかと感じています。「**One for all, All for one**」「**一心同体**」これは、道徳の授業で子どもたちから挙がってきた言葉です。夏休み明けも、きっと様々な課題に直面すると思いますが、この言葉とその意味を頭の片隅において生活するとともに、時には現状を冷静に見つめ、自分たちの目指している姿に立ち返り、一人一人の思いをつなぎ合わせながら、クラスの力、「つながり」としての集団の力を高めていきたいと思います。

